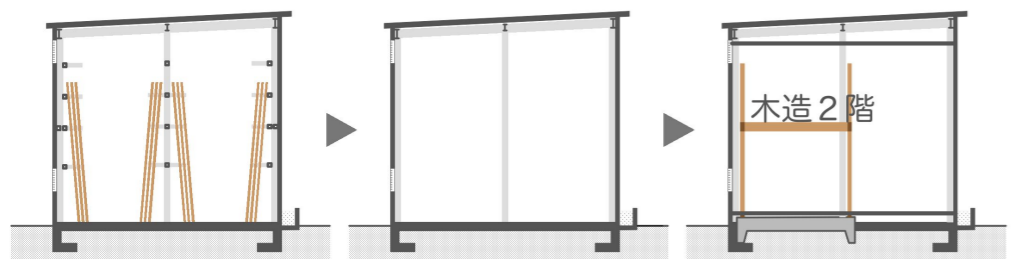


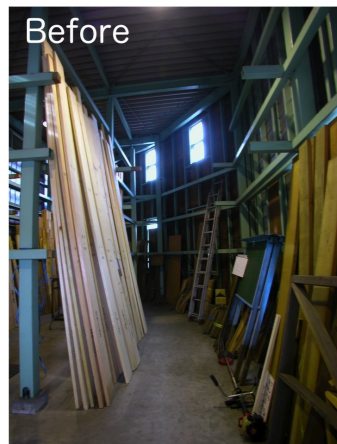
1 鉄骨造平屋の中に、木造2階をつくる



元々は材木を立て掛ける天井の高い倉庫（断面図）

主要構造を残し余分な部材を撤去

残ったすっきりした空間の中に木造2階建てをつくりました



Before

元々は鉄骨平屋建ての材木倉庫。主要構造部と屋根を残しながら、その中に木造2階建てをつくらせたユニークな構造の建物です。

異なった構造のため建物の揺れ方も異なります。鉄骨と木造は切り離し、構造的にはお互いに独立させました。

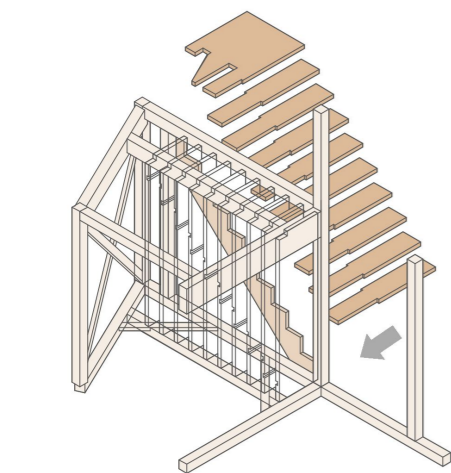
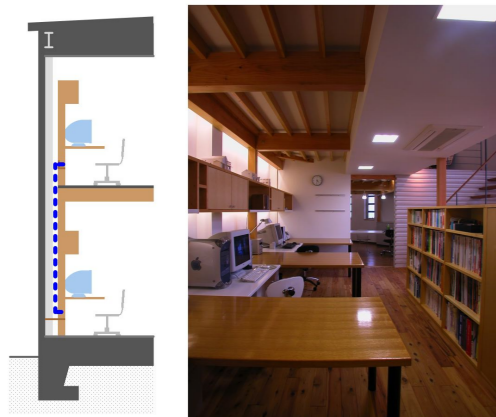


After

2 二つの構造の隙間を活かす

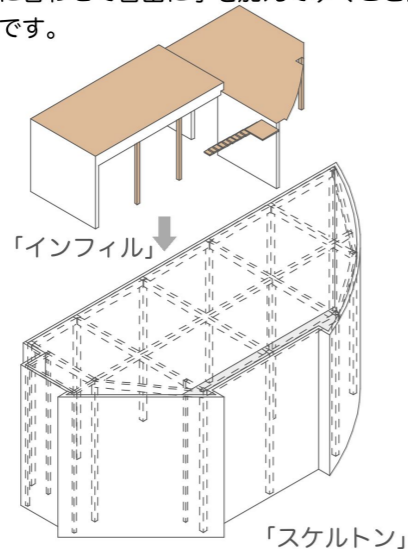
木造と鉄骨のクリアランス（隙間）を配線スペースとして活用。フロア同士の縦と横の配線が後からでも簡単につながります。

さらにこの隙間に間接照明を設け、オフィス空間をやわらかく照らします。



3 スケルトン・インフィル

この建物は鉄骨造部分が風雨から内部を守るシェルターとなるスケルトンであり、木造部分がインフィルとなり今後の業務スタイルの変化に合わせて自由に手を加えてゆくことが可能です。



4 本棚が支える階段！

段板が壁から突き出ているだけのシンプルな階段。じつは段板を支えているのは壁の裏に隠された本棚です。段板は実際見えている部分より1.8倍も長く、壁を突き抜けてそのまま本棚の固定棚になっています。棚板となった段板は本棚縦枠の溝の中にしっかりと挟み込まれています。

この階段の壁面は元々材木屋だったことを象徴するデザイン、「栈木で積み重ねられた木材のイメージ」としました。



Before



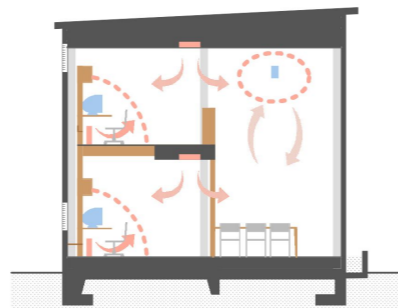
After

5 緑のスクリーン→

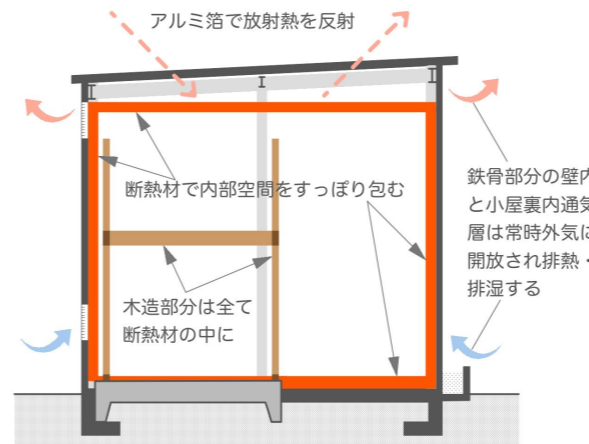
大通りに面した東側の大きなガラス面の外側にステンレスのワイヤーを張り、常緑のテイカカズラを這わせる「緑のスクリーン」を設けました。通りからの視線をやわらげ、街並にも潤いを加えます。夏の直射からの遮熱効果も得られます。

6 タスク・アンビエント

「タスク域＝作業域」と「アンビエント域＝空間全体域」を分けて冷暖房設備を設け、ファン(エコルフィー)によって空気を循環させ建物全体を緩やかに冷暖房しています（電気式蓄熱暖房とエアコン併用）



7 内断熱でもあり外断熱でもある？！



既存の建物を外断熱にするのは難しい。そこで鉄骨造の内側からすっぽりアルミ箔付き断熱材で内部空間を被うことにしました。既存の外壁胴縁は通気胴縁の役割をします。鉄骨からみると内断熱、木造からみると外断熱になります。

木造は鉄骨から離してあるので、断熱材で包まれた中に木造がある状態になり、木材はいつも乾いた良好な状態でいられます。リフォームでありながら高い断熱性・気密性を確保しました。



建築作品部門

低炭素型社会の推進

建築物の保存問題全般

ii office 七つの試み

-建物の中に建物をつくる発想から-

(2006年6月群馬県高崎市)

当社建築設計事務所オフィスは鉄骨平屋建ての材木倉庫をリノベーションした建物です。

父から譲り受けた築18年の鉄骨平屋建ての材木倉庫。長さ4mの材木を立て掛ける為に階高が高く、また木材を乾燥させることが目的の室内は常に通風（隙き間風）良好であり、そのまま執務空間にするには不適當な建物でした。

それら要素を逆手にとって、階高の高さを利用して既存の鉄骨建物の中に構造的に独立した木造2階建てのフロアをつくり、隙き間の多い鉄骨側の既存胴縁を建物外皮の通気層としました。室内側は外断熱用の断熱材ですっぽり覆って断熱気密性の高い内部空間を実現しています。

既存のストックを最大限活用しながら実現した「七つの試み」を紹介します。



応募代表者：飯井 雅裕

株式会社 飯井建築設計事務所

[プロフィール]

1959年 群馬県高崎市生まれ
1978年 群馬県立高崎高等学校 卒業
1983年 千葉大学工学部建築学科 卒業
1983年 岡野設計監理事務所 勤務
1988年 アルクデザインパートナーズ 勤務
1995年 飯井建築設計事務所設立

敷地の置かれた環境や魅力を生かしながら、街並から素材に至るまで調和のとれたものになるよう心掛け、建物が「丈夫で健康」であると同時に「美しく機能的なもの」であることを目指しています。